

法務大臣 谷垣 禎一 様

東京拘置所の濱崎勝次さん、宮城吉英さんの2人に死刑が執行されたことに
抗議し、直ちに死刑執行停止することを求めます

私たち日本キリスト教婦人矯風会は創立以来126年、平和と人権が尊重される社会実現を願って活動を続けてきました。全ての人の命は等しく尊重されるべきです。矯風会は死刑の廃止を求めて度々要請してきました。

就任2ヶ月たたない2月21日に3人の刑を執行し、それから2ヵ月しか経たないうちに2人の執行を行った事は世界の潮流に反します。

谷垣法務大臣は、大半の国民が死刑を支持しているとしておられますが、国際社会からは国内世論を口実に死刑廃止に向けての動きをしないことに対して、厳しく批判されています。国民感情についての世論調査も、質問が誘導的だと専門家からも指摘され、正確な指標とすることはできません。

先進国で死刑執行を行っているのは米国と日本だけです。その米国もメリーランド州で死刑廃止法案が議会を通過し、最も死刑執行の多かったテキサス州で減少していると言われます。米国も死刑廃止に向かっています。

また、死刑制度が犯罪の抑止力になっているという調査結果は得られておらず、死刑を求めて起こす殺人事件さえも起こっています。情報公開がなく、秘密裏に執行される死刑の実態について国民は知らされていません。また加害者の命を絶つ事が、被害者家族の真の癒しになっているとは言えません。

今一度立ち止まって死刑の執行を停止し、死刑廃止への国民的議論を起こす方策を考えて下さい。

2013年5月2日

公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会

理事長 佐竹 順子